

岐阜県立大垣商業高等学校

学 校 長 山田 雄治

学校住所 〒503-0002 大垣市開発町4-300

電 話 0584-81-4483

1 会議の名称 岐阜県立大垣商業高等学校 学校評議員会（令和元年度 第2回）

2 会議の構成 委 員 井爪 孝 開発町自治会 会長
高木 等 公益財団法人ソフトピアジャパンセンター 事務局長
東 多恵子 株式会社KOHOプラスワン 代表
高橋 信一 岐阜協立大学 経営学部長
二神 佐代子 大垣商業高等学校 PTA副会長

学 校 側	山田 雄治	校長
	炭竈 由彦	副校長
	加藤 好	事務部長
	桑原 聡	教頭
	相川 長徳	教頭
	豊吉 利之	教務部長
	井村 仁美	教務部長（定時制）
	有賀 竜也	生徒指導部長
	川瀬 ちさ紀	進路指導部長
	宮崎 貢	特別活動部長
	河合 龍憲	専門教育推進部長

3 会議の目的 学校運営及び教育活動などに関して地域社会及び保護者、その他に情報を発信し、それに基づく要望などを幅広く聴聞し、特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和2年1月30日（木） 14:00～16:00 大垣商業高等学校 校長室等
委員4名、学校側10人が出席

5 会議の概要

- （1）課題研究発表会の参観
- （2）学校長挨拶

- ・参観していただいた課題研究発表会は、3年生の今年度の取組を後輩に引き継ぐ場である。地域の観光資源の発掘、企業と連携した商品開発、地元の学校との連携などを通して将来ふるさと「大垣」で生きていきたい生徒を一人でも多く育てていきたい。忌憚のないご意見をいただき、来年度につなげていきたい。

(3) 学校評価

教育活動の成果と課題

<教務>

- ・12月に、ホワイトボード、電子黒板機能のついたプロジェクタ、書画カメラ、タブレットPCが配備された。活用の方法について研究していき、生徒の学びに役立つよう取り組んでいきたい

<生徒指導>

- ・高校生としてのマナーや規範意識を身につけさせるための指導については、保護者・生徒から高い評価をいただいている。
- ・社会環境の変化等に応じて校則の見直しを進めている。本校は商業高校であり、これまで同様ビジネスマナーという視点からも指導をしていきたい。本日は委員の皆様からアドバイスをいただき、今後の指導の参考にしたいと考えている。

<進路指導>

- ・就職希望者61名が11月までに全員合格した。
- ・進学希望者のうち、国公立希望者については夏休み前から指導を開始した結果、国公立大学合格者は11名という成果が得られた。
- ・プレゼン能力はもちろん、自分で課題を発見し、取り組むことができる生徒を育てていきたい。

<特別活動>

- ・生徒会活動、部活動、HR活動を大きな柱として進めている。今年の文化祭は、生徒たちが中心となって新しい「ルール」や「仕組み」を作って取り組んでいる点が特徴的であった。
- ・部活動は変化の時であるが、野球部はじめ多くの部が活躍した。コンピュータ、弓道など全国レベルで活躍している。
- ・ボランティア活動についても、生徒会や部活動の生徒などが活躍できる機会をつくっていきたい。

<専門教育>

- ・県から2年間の指定を受け、地域との連携に関する研究を進めてきた。今年はすべての類型において地域からの学びを重点において取り組んだ。来年度以降も外部の力をお借りし、生徒の学びを深めていきたい。改善点は資格取得について全員が合格するよう力を入れていきたい。

<定時制>

- ・学びの吸収率が高い。学び直しを入れながら、高校生のレベルに達する指導を心掛けている。検定指導においても、一人一人にあった指導をしている。進路未定者については、卒業までに進路を決定できるよう指導していきたい。講演など時間的に難しい点もあるが、機会があれば、ご指導願いたい。

<事務>

- ・普通教室空調設備工事は6月に完成した。食堂木質化工事は、壁を変え、明るい感じとなり好評である。商品実験室漏水被害箇所修繕工事とともに一部教室LED化を行った。またPTAの支援があり応援団席の改修を行うことができた。グラウンド照明は3年間をかけ、LED化を進める。本年度は野球用グラウンド周辺を整備する。南舎屋上防水改修工事を行う。来年度はグラウンド照明第

2期の工事、記念館の外壁の改修・プール改修（公共建築課発注）を予定している。

(4) 意見交換

委員1：生徒の皆さんや先生方に地区の様々なイベントに参加・協力していただき、大変感謝している。

委員2：社会環境の変化に伴い、学校も様々なことに対応していかなければならない状況にある。そのような中で、校則から見直していくのはよい。先日テレビで私服デーの取り組みが報道されていたが、そのような取り組みもおもしろいと思った。

委員3：発表会は、調査などの過程が楽しいのではないだろうかと思像して聞いていた。全員が分担して関わる良い取り組み。校則については、縛るのではなく、教育的指導にしていくのは、方向性としては良い。ただ、先生方の指導は大変だろうと思う。

司会：先ほども報告させていただいたように現在校則の見直しを進めているが、本校が商業高校であるという点を考慮すると指導の中にどのようにビジネスマナーという視点を取り入れていくと良いと思われるか。

委員1：時代にあったように変わっていかなければならない。一気に変わることはないと思うが、生徒を信頼して指導を進めていくと良いのではないか。

委員4：大商は厳しいというイメージがあるが、そのおかげで、保護者としては安心して送り出すことができている。校則の見直しで、急に枠が外れるのは心配であるが、学校は子どもを信用して進めていると感じている。

発表会は、外に出ていろいろな体験をさせてもらっていると感じた。

校長：情報セキュリティに関する講演をいただいた講師から、本校生徒のネット上のマナーは、優秀であると評価を受けた。地域連携事業で社会人の方と接したり、文化祭運営など様々な取り組みを通して生徒がTPOに応じた対応を学んでいるからではないか。今後TPOに応じて考えさせる場を作ることによってモラル向上を図りたい。本校は厳しいと言われているが、中学生の進路希望状況からみても、本校の教育活動が中学生には人気がある。世の中の流れを視野にいれながら生徒が自ら考え行動できる環境をつくっていきたい。

6 会議のまとめ

今後もこれまでの取り組みの通り、ご意見をいただき、地域に根差した産業教育を一層充実していきたい。

.